

12/18日付の勝利→12/21で 死刑阻止を闘い続ける

全てのクラスで討論⇒代議員選出を

全学の学生・教養員の皆さん、とりわけ教養部生の皆さんへ。与こそ全教養部での討論の成果を以て、18代議員大会に集約し、全教養部ストライキによる闘いの烽火をおげる時だ。この間ほとんどのクラスで行なわれてきた討論の内容を更に深化させ、行動方針を打ち立て、代議員未選出のクラスは早速に完全選出を終えよう。

現在、先日のソウル大決起に見られるような韓国民衆の不屈の闘いと、日本に於て様々な不都合点をさらみつつも斗われてきた日韓連帯-死刑阻止の闘いとの力によって、日帝と全斗煥は、12月上旬の確定判決-即時死刑という目論見を延期せざるを得なくなっている。しかし、依然として日帝は全斗煥を執行人とした新植民地支那強化のために民主化斗争圧殺をなすあらゆる姿勢を変えていない。日帝-鈴木政権は全斗煥らと謀って金大中氏死刑の機をうかがい続けているのである。この日帝-全の死刑合意体制に対する差力糾弾によって、民主化斗争への圧殺攻撃を封じ止めていくのが我々の任務である。

そのような闘いとして、この間学大に於ては、農学部・文芸部陸自志体のストライキ決起、緊急行動差による12・5大集会・10ノスト斗争、全学中央斗争委員会による12・6ノリスト決起等が闘い抜かれてきた。これらの闘いを全教養部の意志として継承し、代大→全大ストライキ決起という最大限の自治会運動の戦術でより強固な斗争陣型を構築しようではないか。誰にでもできて、しかも日帝の家権力機構への高度な差力斗争である全大ストライキを実現するものとして12・18日代大の意義を確認しよう。そして、これまでの学内での運動の力を以て、日帝-全の死刑合意体制の弱

い環に攻撃を集中する12・19韓国領事館包囲糾弾行動に決起し、死刑判決を阻止する闘いを最後の最後まで貫徹しよう。

一方では、アリバイ的に金大中、さ書を語りつつ、自らの醜悪な党派利害のためのニセ公認デモ上げ、公認化のみを目的として日「共」-民青が代大ごっこをやろうとしている。彼らのやり方は恒例の自治委員会デモ上げと同じ手口である。即ち学生の前にはほとんど姿を見せず、クラス討論もさっぱり組織せずに裏から手を回して怪しげな委任状をかき集め、一方的に「成立」を強弁するというものである。しかし彼等の犯罪性はそれにとどまるものではない。彼等は「金大中救出」を口にしながら、侵略者=日帝の姿を隠蔽し、「韓国が民主主義を踏みとどまっている。」とのみ描き出すことにより、闘いの方向を曲げ、朝鮮人に対する差別排外主義を煽動しているのだ。彼らは民主化斗争を闘う韓国民衆に連帯を表明しない。それはしないのではなく、できないのだ。自らが、日韓連帯を望まず、人民分断の走手となっていることを日「共」-民青自身がよく承知しているのである。こうしたニセ公認の代大デモ上げが自治破壊であるばかりか、日韓連帯の障害物であること、粉砕の対象であることを全ての教養部さ友が見抜かれるよう訴える。

12・18日代大へ結集せよ

自治会